

群馬の医史

会世話役となり、九年には桐生医学講習所会頭に推され、桐生医界に尽すことが多かった。

本 島 立 (太田市)

太田市は江戸時代に発達し、例幣使街道の一駅として、また大光院の門前町として、栄えた町である。ここに薬種商として大津屋、医師として本島氏があつて、知られていた。

本島氏の家系

本島氏は江戸時代の初期から太田に住み、医業で聞えた家であつた。江戸時代の中期、五代目の自柳の時から医業が発展したと思われる。東光寺の墓碑銘と、過去帳とを参照すると、その医業は数馬と名乗る人から始まり、この人が始めて医術を習得し、家伝の処方¹を定めたとある。承応二年に歿した。次代は自柳といった人だったが、以後三、四、五代共に自柳を襲名している。五代目自柳は「明和二年七月に生れ、人となり高潔正直で気概があり、人の不正を見ていられない性格であつた。したがって自分の行為も頗る厳正で、貧窮の病人は力を尽して救済するなど、世人の称讃を博する事が多



和蘭全軀内外分合図 (一)

1 毎年日光東照宮の例祭へ奉幣の爲め、勅使が通る街道。
2 薬種商の章参照。
3 太田市内にあり。本島氏の墓あり。
4 1653年。
5 1765年、以下の引用は墓碑より。

かった。かつて医術修業の為に長崎に遊学し、見聞するところが博く、患者は常に玄関に満ちていた。天保二年に六十七才で歿した」。

その後も自柳の名を襲って、明治時代の自柳の代になった。この人は礼卿と号し、本県の政治界に活躍して有名である。



和蘭全軀内外分合図(二)

柳翁秘方

十余代の家系が連綿として医業に従事した例は、本県としては非常に珍らしい。この一つをみても本島氏が医家として、周辺の患家から厚い信頼を寄せられ、地方医療の為に貢献してきた事が推知される。苗字帯刀を許るされて、一般庶民とは異う待遇を受け、出人には自家用の駕籠に乗ったと伝えてい

る。専門は外科であった。この外科は漢方の外に洋方を交えていた。本島家には「柳翁秘方」という、自家常用の処方を書いたものがある。大建中湯、小建中湯などの内科的な薬剤処方に交って、ペリス散(打身、骨折等に用う)、パヅリ膏(膿の吸出し薬)、ミニイ膏(腫を消し肉を盛り上げる)などが見える。これらは南蛮流或は紅毛流とか言われる、長崎系の外科薬である。自柳が長

6 1831年。

8 蜀椒・乾姜・人參に膠飴を加える。

10 未考。

12 menic, 鉛丹。

7 群馬縣議会史Ⅰ, 194ページ参照。

9 桂枝・生姜・大棗・芍薬・甘草に膠飴を加える。

11 Unguentum basilicum, 松脂膿膏。

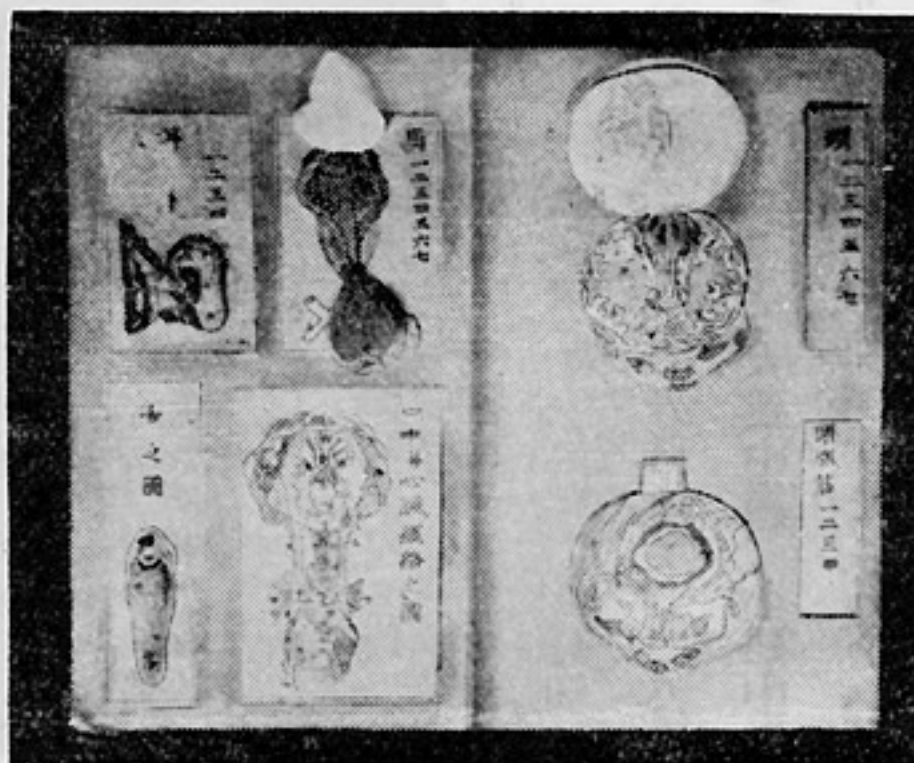
崎に遊学したという伝承と、これらは連るものであろうか。

本島家所蔵の江戸時代医書の中に、和蘭全軀内外分合図がある。¹³これは稀書である。和蘭解剖書の翻譯といえは、解体新書を思い起こすが、それより可成早くこの内外分合図が、本木良意¹⁴によって元禄頃¹⁵に作られた。しかし色々な事情で世に埋もれようとしたのを、鈴木宗云¹⁶の手によって、明和九年¹⁷に出版されたものである。験号と図版の二部から成り、図版はタテ二五厘半、ヨコ一五厘の折本で、十二面ある。木板印刷に淡彩を施し、図の上に紙細工の部分図を貼り合せ、一枚ずつめくって見るようにした、模型図である。第一図は全軀の前面図で六枚貼り合せ、第二図は背面図で四枚の貼り合せ、以下部分解剖図に移り、最後は懐胎の像で終わっている。

長 沢 理 玄 (館 林 市)

山 形 より 上野 へ

明治以後痘瘡予防の措置として、種痘が強制施行されたために、現今では痘瘡の流行は殆ど見られなくなった



和蘭全軀内外分合図 (三)

13 原本は Johann Remmelin の著 Pinax Microcosmographicus を、Justus gratianus が蘭訳したもの。1667年アムステルダムの Justus Danchezsz の手によって出版された。
 14 本木良意(1628~1697)、通称庄太夫、長崎の通詞である。
 15 本木は元禄10年(1697)に歿した。
 16 伝記不詳。
 17 1772年である。解体新書の出版は安永3年(1774)。

歌兒埤氏人身窮理學

麻疹要方

醫學入門

傷寒論輯義

金匱要畧

千金方

素問

經穴彙解

產科發蒙

○金匱要畧問書

とりあげはは心得草

本島氏藏書

片倉元周 寛政 五

吉益口授

傷寒論名數解

葉全休新論

腹症奇覽

醫範提綱

惑膏方蘭亭問

○痘瘡水鏡錄

宋本素問

婦人良方

○本島柳之助氏

生理發蒙図式

傷寒難病論集

○傷寒論

解體新書

吉益東洞 明和 八

稻葉文礼 文化 六

宇田川榛齋 文化 二

橘南谿

島村鼎甫 慶応 二

和蘭全軀内外分合図

○花岡先生青囊秘録

叢桂偶記

原病學通論

中野氏藏書

(中野勝太氏)